

之方江差越候」(21・オ)

六月廿九日快晴

日曜日ニ而朝マ才藤氏も被参二時過マ合

五輩同道いたし高見氏両三日前合

少々風邪ニ付為見舞差越し候廻X

暮過ニ帰着候才藤氏ハ今晚ハ一宿マX

被致候

七月朔日快晴

月曜日平日之通り読書「グレイン」X

先日合コントリリニ帰ラレ候処今日

又々此方江来られ候」(21・ウ)

(鹿兒島県立図書館 大正5年6月26日
寄贈印)

(土岐久賀 寄贈)

八八 ニテホームハ明日家ニ帰り候由ニテ

暇乞トシテ今日ハ見舞ニ而候兩人

八十時過ニ被帰候

六月
同廿一日陰雨

土曜日諸事平日通十時比より

齊
才藤氏入来被致暫有而「ロニー

も入来ニ而緩々と咄共有之夜十時

比ニ被帰候

六月
同廿二日 晴

日曜日昼時分ニ暫時道遙致候

才藤氏入来被致候

六月
同廿三日晴

月曜日毎之通読書昼後ウ (20・ウ)

才藤氏入来被致候

六月
同廿四日 雨

火曜日右同断

六月
同廿五日陰晴

水曜日右同断

六月
同廿六日快晴

木曜日右同断

六月
同廿七日快晴

金曜日右同断

六月
同廿八日快晴

土曜日右同断 才藤氏暫時入

来被致候先日ウ追々兩人ツ、諸所江

ウルヤモン之世話ニ而上野氏はしめ

相分れ候我等も近日外之宿江移賦

ニテ候長澤事今日ウ「スコットランド

(西) 六月十五日快晴

日曜日ニ而朝食後〆「ケンシントンホテル江

松村永井澤井浅倉同道ニ而差越候時ニ帰

リ候処関氏出水氏江用事ニ而被来居候

六月
同十六日快晴

月曜日毎之通り読書^X

。六月
十七日快晴

火曜日「コルレヂー^二三時比〆斤目習

ニ上野氏松村松元岩屋同道ニ而

差越候処「バルリー委敷教へ候六時

ニ帰着候

六月
同十八日快晴

水曜日毎之通り読書夕八時比に

佛蘭西之「ロニー」ト云人并ニ才藤健^(ママ)

次郎と云人兩人同道ニ而入来被致候

此齋藤氏ハ本と熊谷之藩ニ而故へ有^X

て懇意之佛人ニ萬事頼込ミ四年

前ニ横濱より乗船ニ相成候由「ロニー」^X

ハ全躰ニ我国之学文ヲ好ム人物ニて大

略日本語も通し十時比「ケンシントン

ホテルの方江兩人共ニ被往候

六月
同十九日 雨

木曜日平日通読書石垣氏関「(20・オ)

氏高木氏英国中諸器械等

為見物當地今日出立有之候

六月廿日快晴

金曜日毎之通読書一時前ヨリ

「ホーム才藤氏并ニロニー此三人^(ママ)入来

八六 之刻限ヲ見合九時過ニ蒸氣車問屋

ニ差越居候処無程車も来り早速

一同乗込ミ十一時半比ニ帰着ス^候

。六月
八日快晴

日曜日ニ而候得共昨日之他出ニ付今日ハ

復読書致候

。六月
九日 晴

毎之通り「バルルイー」「グレイム」モ来り読

書致候グレイム義ハ當分休学ニ相成候故

明後十一日「スコットランドの方江ニ七日斗り」(19・オ)

之間帰国致候由ニ而暇乞ともいたして

歸^リ候
らる

六月十日陰雨

毎之通り読書「グレイム代りニ」ヲブ

ラエンと云人今日より来り教へ候

六月十一日雨

十一時八人列れニて「ブアーフ案内と

してホトガラヒー取ニ差越候七時過ニ

帰着候

六月
同十二日陰

毎之通り読書

六月
同十三日快晴

十一時比より近所之蒸氣車修補^甫

場ニ五六輩同道ニ而差越諸所見

物いたし尅時前帰着候

六月
同十四日快晴

毎之通り読書」(19・ウ)

(底本十五日の記事を欠く。「西洋遊学日誌」によりこれを補う。)

シングトンホテル江用事有之由にて七時

過ニハ彼方江又々被往候

六月四日晴

每之通り読書セリ

六月五日 快晴

右同七時過より歩行致候

六月六日 快晴

右同

六月七日 快晴

「ウルヤモソン」之案内ニ而今日ハ農業之

器械製造場ニ見物トシテ差越賦

ニテ「グレイム七時過ハ此方江来リ八時ニ

食事仕舞無程六七輩同道ニ而

蒸氣車問屋ニ差越候処「ウルヤモ

ソン」始メ山尾氏野村氏杯も出會ニ而」(18・ウ)

丁度蒸氣車ニ乗込処ニ石垣氏ハシ

メ三人ノ衆被来一所ニ出車拾二時比ニ

器械所ニ着候當所迄者五十里餘有

之候由夫より一同役所ニ差越各五六人

ツ、相分り案内を乞ヒ器械委敷見

物致候夫より四五町も有之処□被立寄

候ニ付一所ニ集リ随分大キナル花園等も有

之庭風ノ影宜敷場所ニ而候暫有而食事

仕舞無程帰掛ニ器械ヲ以テ畠ヲスク

場所ヲ諸所見物ニ而又々馬車ニ乗リ中

途ニ而牛杯見物イタシ蒸氣車も九時半

ニ出ル賦夫故ハ諸所ニ而麥刈器械杯も見物

ニテ又々以前食事致候宿ニ立寄り出車

六月
同三日晴

一昨日山尾氏ニ約速(マヤ)いたし候今日者

「コレレヂニ四五輩同列ニ而差越候処

山尾氏未タ出席無之故暫時ケ

ミスト所ニ侍居候處十二時過ニ山尾出氏

席被致無程同道ニ而武器藏「リア

ウス」×と云所江同道ニ而差越候処兵卒も

段々相見得早速案内者出来り委

敷案内ニて全躰當所者古来之王城

ニテ最早八百年計リ以前ニ取立ノ由ニて

餘程古く相見得當分武具格護

所ニ而兵卒屯場ニ相成始終訓練

等も致候由ニ而則チ今日も折角いたし居候

劔銃格護ニ相成候數六萬五千挺其

外馬乘人形鎧武者或ハ劔杯數ス

知レス支那「ホルトカル」トルコ」杯と戦争

之砌分捕ニ相成候大砲等も段々有

之候緒又「帝王ノ冠リ深ク格護ニ相

成金細工之器物も段々有之諸所

委敷見物いたし候夫より暫時近辺之町

家ニ立入り食を仕舞無程山尾氏之」(18・オ)

矢張案内ニて船修繕場見物夫より川ノ

下に道ヲ切通し候所□ト云ふ所通り

候処中途ニハ段々見せ物杯有之四町

位も可有敬と見得侍りぬ歸リニハ蒸氣

船ニて川を乗上廻り橋之涯ニ船を着ケ山

尾氏も同道ニ而帰宿致候山尾氏ハ「ケン

。閏五月
廿二日陰

右同断

。閏五月
廿三日陰

右同断

。閏五月
廿四日陰

日曜日ニ而三時比より追遥致候

。閏五月
廿五日晴

終日毎之通り読書

。閏五月
廿六日陰

右同断「(17・オ)

閏五月廿七日晴

右同断

。閏五月
廿八日晴

八三 右同断

。閏五月
廿九日雨陰

右同断

。閏五月
晦日雨陰

右同

乙丑
丑六月朔日雨

日曜日ニ而朝食後ケケンシングトンホテル江

四五輩同道ニ而差越一時前ニ帰り四時比ハ

山尾氏之宿江差越暫時談話致候尤明日

ハ造船場見物致度との事ニて都合を山尾

氏ニ頼賦ニ而候得共手形之都合早速ニ

ハ調兼夫故延引いたし候六時過ハ山尾

氏同道ニ而帰宿致候色々の話共有之

十時ニ被帰候「(17・ウ)

六月二日陰小雨

閏五月
五月十五日晴天

ゲ□ーム
グレイム
交代ニ而入来一同
右同「ゲーム」バルリーも今日迄来り書

江教へ
を読せ候

閏五月
五月十六日晴天

候故×××
每之通
日曜日ニ而每之通り稽古も取止メ朝

食後のバーフ始め五六輩同道ニ而ケン

ンケン
ンシンクトン花園江差越候諸所見物

中途
致居候處途中雨降出し木蔭ニ暫

り×××
時雨宿いたし晴上ると無程帰り候

□
二時比よりケンシンクトンホテル江差越し

五時前ニ帰り候

閏五月
五月十七日快晴

一同勉強××××
終日読書字書ニ而候

閏五月
五月十八日晴天

右同断「(16・ウ)

閏五月
五月十九日快晴後雨

右同断

閏五月
五月廿日晴天

步行
右同断七時後より追遥致候 (以上で「漂流日誌」終り)

(西) 閏五月
廿一日晴天 (ここより終りまで「西洋遊学日誌」で対校)

右同断十一時比迄「バルリー」二時比より

□
「グレイン」先日ヨリ毎日教へ方入来致候

今日八日曜日ニ而。^{書読も不致}十一時比より石垣氏宿^{杯屋ニ}江

差越候^{しし}暫有而^ハ帰リ候長州人先日より

一行江面會致度旨^{XXXXXX}ホームを以て申入候ニ付

今日ハ六時後^ハ。三人被^ハ参^ハ首尾委敷^ハ

聞候処江戸江初メテ出て一昨年五月十日攘

夷期限之砌前々日五月八日夜中

横濱ヲ忍出懇意之西洋人江便り異

船江被乗込四ヶ月目ニ當地江着被致候由

其節者五人ニ而候得共兩人ハ昨年帰国

被致候由聞及候其外彼是之咄共有之

十一時比ニ被帰候

閏五月
五月
同十一日晴

今日ハ昨日之約束ニ而^暫老時に山尾氏被来^{長人XXXXX}

諸生走り競或ハ飛競杯之遊方見物^{XXXXXX}

差越候^ハニ列れ被往ニ六時ニ帰着候^ハ

閏五月
五月
同十二日晴雨^{半天}

通弁稽古^{分ニ}終日読書ニ而候暮八時比三人之衆

被来候^ハ (16・オ)

閏五月
五月
十三日晴

終日読書手習ニ而候^{XXXXXX}

閏五月
五月
十四日曇雨

通弁稽古
右同断

中ニテ鳥渡遇ヒ候由今日此方ニ来ルの時

モ又々遇ヒ委敷事も不相分候得共三人一 (15・オ)

昨年ヨリ當地江来リ分理学稽古

致候哉ニホーム合間及候 一所ニ帰候

閏五月四日快晴

今日者早朝ヨリパーフも十時比ヨリ一行

通弁ハ勿論字書杯稽古ニテ候

生も今日より混与止宿ニテ一向言葉ヲ

有之 教へ候

閏五月 同五日快晴

終日読書ニテ候七時過ル石垣氏堀

木 氏并ニシームホームも来リ。掃宅は暮過ニ而

閏五月 同六日晴後曇

右同断一統勉強ニ而候 終日通弁書読ム

閏五月 同七日朝合曇昼後より雨

右同断言葉之稽古ニ而候

閏五月 同八日小雨

右同断通弁六時過ル石垣氏川内

高木 堀氏入来被致候

閏五月 同九日晴

一統勉強ニ而候 通弁之稽古 (15・ウ)

閏五月 同十日晴

学頭
上野氏ヨリ借宅ノ規則ホーム申出候趣 (14・ウ)
統

意ヲ一行江傳達ニ相成候規則通り十二

時比ニハ休息致シ候

乙丑閏五月朔日 快晴

今朝九時前ニシーム来リ何角之都合致候
朝九時ニ

食後ヨリ 読書三時比ヨリ衣服仕立物三人

来リ銘々衣服ノ尺委敷取方致シ尤モ

シームもホームも一所ニ来リ一同尺取相済
五時頃ニ者

無程皆々×××
シ上シーム杯ハ帰り候未タ各々衣服不相調

故へ終日外出モ不相叶 一通読書××××
通弁ノ稽古ノミ

七九
ニテ候

五月閏二日快晴 七時前ニ一同起九時に食
頃ニ者統

相済と 一同会読ニ而候
事仕舞夫より通弁読書

シームジーム兩人周旋之輩師匠右之兩人××××××
ムホーム先日より頼候先生「バーフと云フ

モノヲ同道ニテ列れ来リ 彼是之事も大略

咄共有之明日方より此方江混与居付之賦

ニテ暮前三人共ニ帰り候
ニ者宅致候「フレグレクバーフ」といふ人之由候

閏五月
五月 天
三日晴

今日ハ日曜日ニテ會読も無之思ひくの読方
各々

ニテ候昼食前ヨリバーフ入来致シ色々咄ニ
ニ而段々之

テ日入前ヨリホームシームも来リ外ニ壹人

同列ニテ来リ 候昨日ハホーム長州人ニ途

尤是迄者船中之事にて始終學則も立
兼候へとも今日略學則左之通(此 頃ニ
所余白アリ學則記入ノ為ナラムカ) 然ル 処ニ 五時。ホ

×

之
ニ五時ニ出車ノ由ニテ
船者「ゾニート」云フ船ニ而候彼之
計リ
ニニ
十時一同上陸
一統
ホテル
宿に立ふ
江入

有て
計リ
髪結
ニ窓而

髪摘トモ致シ
候
當所ニテ諸人荷物不勘惚テ

委敷改候由當地も大方四階五階ノ家作ニテ

一射賑々敷有之候ニ時ニ食事仕舞相済

無程
ト最早五時ニモ成リタレハ直チニ蒸氣車帰

リ来リ各々車ニ乗込ミ五時半ニハ出車セリ

老時ニ三十里ナラシニ走ル程ニ途中ノ影

色宜敷所モ間々相見得タレトモ委敷見ル事

出来ズ。山ヲ切通シ候所餘多有之時トシテ

立

眞候

ハヨ通り四方窓テ平地風影宜敷候

時ニ「龍動府江着車致シ候処ガラバ兄

ホーム朋友ジーム迎来リ居何角ノ都合

致シ候是レハ今朝「ソーサンプトン」ホーム「テ

イグラフ」ヲ以テシームニ通シ候由尤もシーム

ハ四五日前ヨリ此節ノ一件ニ付態々當地

へ来リ待居夫より馬車ノ都合共共用意有

之候ニ付早速一車ニ都テ乗込ミ「ジーム迄

廿一人乗合ヒ「ソーチソーケンクイン

ホテル江九時過ニ首尾能萬端至極ノ都 (14・オ)

五月
同二十一日快晴

右同断

五月
同二十三日半天

右同断昼二時過ニ「スユエス」江着(13・オ)

船當港も英領ニ而臺場等も相

見へ随分繁花ニ見受候有之船數十艘

入津致候我尅時斗り滞船故上

陸不相叶候四時ニ者出帆致候

出帆前ニ暫時雨降候

五月
同二十四日快晴

一尅時二十里ならし位走り候

五月
同二十五日快晴

×××××
一今日も尅時二十里位走り候ならし逆風ニ而

□ 諸所船杯相見へ候右之方ニ時々島

見へ待りぬ「ホルトカルノ都五六里

沖ニ而遥ニ見へ待りぬ

五月
同二十六日快晴

一右同断帆前船杯諸所漂居候浮

五月
同二十七日快晴

一右同断四時過ヨリ英之地方

見へ待りぬ(13・ウ)

(註) 五月二十八日より閏五月二十日まで『漂流日誌』及び『西洋遊
学日誌』により対校。

(西) 我元治二年乙丑
五月

(漂) 五月 我 ッ 分 テ

廿八日快晴 朝六時過ニ「ソーサンプトン」江着

□ 澤山餘程 花 ×××××
船當 湊 ハ 繁榮ニテ 船數モ多ク相見へ候

少時有て □ いたし 候処
無程 ホーム上陸。蒸氣車ノ都合共聞合タル 候処

走り候[□]平日通り十時ニハ休息致し候[□]

五月
同十七日快晴

一 西北之間を差して[×]尅時二十里ナ[□] (12・オ)

ラシニハ走り候今日者^{共ハ}餘程涼敷候

五月
同十八日快晴

一 今日ハ少し横風ニ而帆開きに

為^(ママ「操」カ)持 尅時ニ拾壹里ならしニハ走り候

五月
同十九日快晴

一 右同断昼四時過ニ「モルタ江着

船いたし候処無程八九輩同道

ニテ上陸いたすと直ニ車ニ乗り

「キリ[□] 寺江到り段々古物見物

是ハ三百年以前「トルコ[□]合戦之[□]

分捕之品と聞及候其頃者[□]
当地者「フランス領地ニ相成[□]

臺場者三重も相成候所[□]

之候[○]當地餘程要害之地ニ相見へ^候

兵卒[○]今日も手広き場所ニ押出^し

調練いたし居候人口三十万位香湊^港

ヨリモ繁栄ニ有之候暮時分ニ本^過

船江[□]帰り^候夜十時ニ出帆いたし候北[×]

を差而走り候

五月
同二十日快晴

一 西北ヲ差し而尅時ニ拾壹里ならし

位ハ走り候諸所島杯相見へ問々^ニ

船杯も相見へ候

五月
同二十一日快晴

一 右同断

を出し拾五夜之事と何ニ而勝れて月ハ潔□

かに影之間ニ居残く砂漠相見ヒへ民眠し

て尅時二十七里位走る程二十六日

之早朝六時ニ「カイロ」と云ふ所ニ着

候無程車□を下り茶屋江立寄り

茶を飲×ミ直チニ又々本之車ニ乗×り

込××ミ無程五ツ時分ニハ車を出し

五月
同十六日天晴

一気車ノ進行速力マシテ尅時二十七

里位もを走る故途上程ニ式千年以前ノ

陵△如見候餘リ早きゆへに見候餘事不出來リ

臺時ニ拾七里位走る程ニ五ツ半

大略如右之 前もなりぬらむとおもふ比をひリ寄○四五十

し兼 候夫より。旅 込 屋 江 立 寄。四五十
致申候我輩も食事 一同
人も食事。相 仕 舞 無程。相濟車を「11・ウ」

出し左右手広き平地之畠者ニ而間ニく

水牛駱駝驢馬或羊類之群餘多れ

相見得候十時過ニ「アレキサンデリ」ニ着致し

暫有て小蒸氣船江乗移り夫より

英之飛脚船「グリー」と云ふ船ニ□

乗候リ処此船者昨年成就ニ相成候船随て

ニて誠ニ部屋杯其外惣し而美を尽××

実ニ極知を究め候船客も餘り多ハく

無之僅四五十人位ニて萬端船中

之接對マツも宜敷是迄ノ船よりも規則

正敷候余ニハ是前通矢張橋三笠

氏と同部屋ニ而候部屋数も五六十位

迄も可ノ有之歎と相見へ候ハ

昼四時ツ分當湊出帆西北を差して×

七二 入致候山形ハ随分赤はげにて景

色宜敷く極悪地と相見へ候 日入時分ニは出帆いたし候

五月 同九日快晴

一向風ニ而候得共風少き餘り障る事

無之尅時十一里位走り候時々赤」(9・ウ)

秃岡相見へ候右之方ハアラビヤノ地

左之方ハアフリカ州間々カクメ之

類之鳥洋中ニ数十疋飛ビ候

五月 同十日快晴

一右同断逆風ニ而今日ハ尅時ニ九

里位ニ而候

五月 同十一日快晴

一今日も逆風強き故尅時ニ八

里位走り赤秃之岡草木一

本も無之不毛之地左右ニ相見へ候

五月 同十二日快晴

一右同断

五月 同十三日快晴

一今日ハ少シハ風スクナキ故昼比

尅時ニ九里位走り西北四分ノ一

北之方を差して走り候」(10・オ)

五月十四日快晴

一北ヨリ少シ西之方を差して逆風

故尅時ニ七里。位 走り候左右六里

斗り之處ニ惣而不毛之地相見へ候

五月 同十五日晴天

一今朝六ツ半時ニ「シユエス江着船

いたし候四ツ時過る當湊え小キ蒸気

又ハ算數稽古ニテ日を暮しける

五月
同七日 快晴

一右同断七ツ時分ニ遙十里斗リ之

處ニ幽ニ相見ヘ夫より漸々近く相成^リ

港江著船いたし候當地ハ

全躰「アラビヤト」地之内

港名を「アイデント」云

暮時分ニ「アデント」云フ。當[○]國[□]英ニ

併セラル當港餘程炎熱ニ而難堪

黒^{マツ}□

候着船すると直ニ狼火を揚大炮

を一発打相図を成し候無程湊船

数十艘こき来り終夜石炭積[×]ミ

致候

五月
同八日快晴

一昨日之賦ニ而ハ今朝早天ニ當港出

帆之筈候処今曉^晩ブルル飛脚船着

いたせしゆへ暮六ツ時^ニ与出帆之筈ニ替り候^シ候^候 (9・オ)

夜明ると直様陸地を望^カミ候処不

毛之地ニテ草木一ツも不相見候甚

炎熱ニ[□] 両三度位も雨降ニテ

全躰人家も少ク英領^鎮 邑

年代リニ成り候由尤英之臺場

四五ヶ所相見ヘ候人家も役目之住店

と相見ヘ^{是も} 四五ヶ所有之候駱馬ニ

車を引せ或ハ乗杯いたし数十疋

相見ヘ候通融之船何も外ニハ用

事無之石炭積斗リニ入港^{いたし候よし}よし

水も取ル事ハ不出来候夫故^{船杯ハ} 老艘

も不相見ヘ候蒸気船斗リ七艘も出

七〇 車道も通り則今日者 [] 車ニ逢

ひ候随分(以下不明ニ候)

四月晦日快晴

四ツ [] ツ半時分益買出帆當船ハ横ハ

狭× 廣き故欵全躰長サも長く丈ケ

卑ク [] 動揺も不致尅時二十二
殊之外

里位も走り候西南之間を差て走(8・オ)

五月朔日快晴

一 今日も少々逆風ニ而候へ共風少々
西へ

ふれ 故尅時二十二里ならしハ走り候

五月 同二日快晴

右同断

五月 同三日快晴

一 右同断夜五ツ半時分ニ余部屋

江 二四寸斗りノ飛魚飛込

五月 同四日快晴 夜さだち []

一 ××× 過 今日ハ昼程より雨降出無程晴餘

ハ右同断

五月 同五日曇晴

一向風ニ而船進ミ兼候尅時二十里

位 ならしニ走り候端午日も大洋中ニ而

[] 船中 [] ニて珍事も無之候

渺茫印度海夢覺忽躬疑 [] 顧躬実在從來何狂癡
前後既三歳再航何曾思香港新嘉坡錫蘭亦旧知 [] 際 [] 道下

熱威裳 [] 衣臭難堪床室汗淋世間少風須遙水到
港遲 [] 港你上陸路心不怡 [] 寿病眩暈無聊倦

[] 味寤寐羈情悲 [] 銀欧 []

不思も暮し候(8・ウ)

五月 同六日快晴

一 諸事平日之通り南公廿書読
× 通弁書 []

[] 作テ印度洋 []

候間数も四拾四五問位部屋数も五

拾位「ビナーリ」エスト云フ船ニ而候餘程ゆつりと

有之候船中□暑氣難堪候余者

橋氏 三笠氏同部屋ニ而候「(7・オ)

四月廿九日快晴

一ホーム四ツ後より上陸いたし車ノ都

合とも周旋にて 九ツ半時分ニ帰船

いたし □六七人同道にてホーム案

案内にて上陸し直ニ車ニ一行統乗り候而

盆買中江水水ノ廻る様楳へ候水溜めノ

場所江差越候処道程我里数ニ而して

六里位有之 餘程此 ボンハイ盆買ハ炎熱

甚敷候中途ニ而馬大キニ草臥

頓与一足も不進故我々共乗りし候

車ニ後れ〇無程外之人数之車

又々迎ニ引返し来り直ニ夫ニ乗逢我 付走せ候処先ニ往し人々江ハ中途ニ而行

々ハ其俣水溜め江車を早め水溜

め一覽致候処四五町斗り之近に見へ □

中央ニ水橋等揚所有之候荒増 見物いたし □

早速車を返し候処無程外之人数江「(7・ウ)

追付馬索式人我々同列拾人

忽而拾式人壺ツ車ニ乗り 力一盃急キ候 □

無程夜も入り暑氣ハ甚敷中く

飢喝マツニ堪兼旅込屋ニ立寄食

事仕舞四ツ半時分ニ過帰り候盆買ハ □

近年餘程富国ニ成り一躰ニ新

嘉坡杯ヨリ立派ニ而候市中ハ五階 □

之上り候処杯も見當り候尤市中ニ蒸氣 □

仕舞五ツ過に帰船致し候「シンカ

ボール」ピナンハ殊之外炎天ニ而候へ共

當所者 随分 涼敷有之候初メノ賦

ニテハ當湊ヨリ外之飛脚船ニテ

「アデン」江着之筈ニ候処多人數之

事故乗移旁差支し訳も有之

矢張今迄の船より盆買江乗往ク

賦ニきやまり候當所者宿之

餘程沢山ニ而朝夕之食事

尤田地等も有之候

四月 同廿四日晴天

朝五ツ時ゴウル出帆北ヨリ少シ西を

行き候今日ハ餘程逆風ニ而尅時ニ

拾里位行き候 餘程平穩

四月 同廿五日晴 昼少□雨後晴

一今日ハ平穩ニ而尅時ニ拾里位行候」(四戸島共ハ一ツも見へす候)

四月 同廿六日快晴

一北少々西之方を差して走り候餘ハ

右同断

四月 同廿七日晴天

一右同断夕方遙ニ島なども見

へ候

四月 同廿八日快晴

一朝五ツ時過ニ盆買江着船湊も随

分手廣候軍艦等も數艘相見へ

惣而之船數四百艘斗りと相聞へ候

昼七ツ時分ニ當湊飛脚船江乗移

四月十九日雨

右同断

四月
同廿日快晴

一今日も不相替矢張逆風ニ而尅時

ニ五六里位ニ而頓与船延兼候初メ

之賦ニ而候ハ、八十九日方ニ「ゴウル江着船」□

之筈ニ候得共順風無之故今日まで

モ着船不相成候

四月
同廿一日四ツ過迄雨後晴

一今朝五ツ前半ニ「ゴウル江着船致候

□四ツ時分各々上陸有之候九ツ過

ニハ快晴相成候まゝ我々も上陸諸

所徘徊臺場とも見物致候。し当分當地ハ「(5・ウ)

六七
英領ニ相成臺場等も英国より都

テ固め候矢張當所も天笠之内「セ

イロン」ト云フ所ニ而新加坡杯と□同敷

甚色黒きものとも斗りにて中々暑□

国と相見へ候拾人斗り同道ニ而旅□致

屋ニ立寄り食事杯いたし夫より江□

些逍遙いたし日入前ニ帰船致候

四月
同廿二日雨晴

一今日ハ終日上陸不致候

四月
同廿三日雨晴

□四ツ時分各々
一今日は一同上陸宿屋江立寄無

程夫より車ニ乗り花園江為齣

散差越し見物いたし同所七ツ半迄ニ

打立元之
□宿屋江暮時分ニ帰着候花園

まで道程式里位有之候少時休

乗込候七ツ時ニ當港出帆いたし候

秋色ハ餘程景色宜敷候

同十三日晴天

一今日までハ諸所島も相見得候

同十四日快晴九ツ半時分ハ俄ニ雨

一朝五ツ時分ニピナン江着船毎之通

食事共仕舞無程上野氏はさしめ四五

輩同道ニ而上陸諸所徘徊致候処(4・ウ)

炎熱甚敷堪兼車ニ乗り瀧之

落る処有之由ニ而水掛リニ差越賦ニ而

沓里半余も到リ最早瀧之近辺迄

往着候へと而も何分ニも八ツ時ニハ出帆之筈ニ

テ遅引を恐れ各其俣引返し九ツ

過船江帰り着候當湊ハ餘程衰

へたと相見得候香港杯とハ同日之論

ニナラス八ツ時分出帆ニ而候影景色も勝

れ候

同十五日晴天沖西

一西を差而行候頓与順風無之逆風

ニテ船餘程動揺致候毎々船酔

之人も有之候………(虫付而不明ナリ)

同十六日快晴右同断

同十七日快晴

一始終逆風ニ而老時ニ五六里位行候

動揺ニ而退屈致候(5・オ)

四月十八日雨

一今日ハ雨天ニも有之且風之事

船も動揺ニ而甚夕退屈致候

ふるへける
客も同様ニ候

四月
同六日晴

一 西と南の方を差て之
一 志時ニ拾里位走る

四月
同七日快晴

一 一日之内食事三度宛ニ而候

四月
同八日快晴

一 諸事平日通り」(3・ウ)

同九日雨天

一 四方島も不見矢張西と南之

方 間を差て行けり

同十日晴天

一 昼過より諸所島等も相見得志時ニ

十六里位行く様有之候

同十一日快晴

一朝五ツ時分新加坡之石炭所江着

船致候旅旅人共思ひくニ上陸致し候

我々も八ツ時分一行上陸車ニ乗り

新加坡江差越諸所見物無程帰り

候甚炎天ニ而難忍有之候今日は

石炭を終日積方いたし船中

甚モ混雑ニ而候五ツ時分又々車ニ乗り」(4・オ)

永井氏杯同車ニ而シンガポール江差越

候処廣き濱辺ニ而音楽杯も有之

候無程帰り候道程老里半余も有

之候

同十二日晴天

一 昨日上陸致候旅旅人共昼時分ニハ都

テ帰船致候本島ヨリ船客。四十人位

六四
三月
同廿八日夕前〆雨

一今日八日曜日曜尤異服も不相調等

上陸不相成候

三月
同廿九日雨

一今日も異服不相調故上陸不叶候

四月朔日半天

一今日ハ帽子服靴履まで各相調八ツ後

ヨリ上陸諸所見物いたし西の刻ハ

及ヒ統舟×
カリニ一行本船ニ帰り候

四月
同二日曇

一九ツ時分〆一行上陸諸所徘徊いた

し八ツ後分〆船江帰り候暫有て「ホ

ーム朋友之蒸氣船参り一行乗

込ミ港口三四里斗リノ所船修甫

場ニ差越し機械見物いたし以前

之蒸氣船ニ而暮時分ニ帰船〆いたし候〆

四月
同三日晴天

一今日ハ上陸も不致諸事平日通り〆

四月
同四日晴天

一昼後〆上陸諸所見場ニ而候「(3・オ)

四月五日雨

一今日ハ五ツ半時二先日の蒸氣船来リ候

無程乗込荷積等いたし夫より暫

有て〆乘付〆時飛脚船江乗込候処船も

随分大く三拾四五間位と相見得部

屋数も三拾位ハ有之候余者橋

三笠同部屋ニ而候七ツ時分ニ香港

出帆暮前より風起強夜ハゆひニ〆候船

三月廿二日 晴

一 早朝羽島の浦出帆屋前にも成り

ぬらん諸所島ハ其内ニ隠れ侍りぬ

(以下一行損蝕)

同廿三日晴

一 海上平穩ニテ一行八ツ後髪を

切り西洋髪ニ相成候」(1・ウ)

三月 同廿四日雨西風吹候

一 船もゆれ夫故氣分悪敷皆

醉方も有之候

三月 同廿五日晴天東風

帆を揚げ表時ニ拾里位

走り候

三月 同廿六日八ツ時分々小雨

六三 一 蒸気ハ勿論順風に帆を揚げ

餘程船も早く八ツ後ニハ香港

ニ着船之賦候処入口後より乗

違ひ又々四五里位も引返し成

之刻斗リニ香港江着船餘程

軍艦ニ樂器を唱らし一入よろしく」(2・オ)

聞へ侍へりける

三月廿七日夕方より雨

一 早朝目覚四方を見廻し候処商賈

船も数多く軍艦も大小拾艘位

入津買船之八九ハ位入津」ホ

「ム」ハ朝より上陸いたし候異服求

メノ周旋ニ而各々適宜ニ今服を

相求めて最早随分気分も直り

通弁書読方共有之候

延引之一條申来り候

□日曇

殿爰許江被来候

市来温泉 □同所御

三月 □

□一統勉強

三月八日晴 (一)行損蝕)

三月九日

□七殿長崎カ著被致候

□月十日晴天

□月十一日晴天

□十日雨天

□月□三

(以下三行損蝕)

泊り御供 □暇乞咄致候

三月□五日雨

早朝□羽島之様帰る筈候處雨天 □たし八

ツ時分ニ出 □島港カ船夜走 □羽島江

婦著候

三月十六日晴

□勉強ニ而候

三月十七日 晴

□山之内カ両上今朝六ツ過ニ市来カ打立見舞□

来一統打寄緩々と咄共いたし七ツ時分又々 □ニ而相咄候

三月十八日

諸事平日之通

三月十九日

明廿日廻船之賦ニ而仕舞共致し居候所今晚五ツ過ニも

成ぬらんとおもふ頃無端も羽島浦江乘氣船入津是ニテ

そ此節□乗船□英船ニは別條有間敷と思ふ処 □御国

之雲行丸之由相しれ無程川内松木堀 □上陸被致

石垣氏□何角御用談 □承り候左候而蒸氣船

□一日ニハ無相違廻船之由相分り候

三月廿日 晴天

明廿一日廻船之賦ニ而一同仕舞ニ而候

三月廿一日半天小風雨

□後カ待居候得共八ツ半時分ニも成りぬらんニ蒸氣船

羽島江渡り来早速石垣氏 □松木堀杯も乗込

暫有て字頭はしめ我々共ニも □乗付 □荷

積杯も相濟候へとも今晚丈ハ羽島浦江滞船之筋ニ相

成候諸事船中ニ而之規則ニ基キ四ツ時分□休息致候

正月廿七日七ツ半ハ小雨

右同断

正月廿八日晴天

右同断

正月廿九日雨

右同断

□月晦日

右同断

二月一日晴天

右同断

二月二日雨晴天

□初旬

(五行損蝕)

□日半天

□半天

□日半天

□日晴天

□十一日

□十二日

□十三日

□月十四日

賦候処今日長崎ハ

(二行損蝕)

(" ")

(" ")

(" ")

(" ")

(" ")

(" ")

(三行 ")

□日

□六日半天

□七日半天

□日晴天

□日晴天

二月廿日 晴

□町田猛彦殿不快

今日ハ四ツ時分ハ (以下七行損蝕)

□月廿五日 (二行損蝕)

□日晴天 (" ")

二月廿七日 (" ")

□月廿八日 雨 (" ")

□月廿九日 晴 (" ")

□朔日雹降

□晴天

□晴天

同断毎日船待

三月四日 晴

□每日程船待ニ而

三月五日 半天

右同断今日長崎ハ又 □據譯ニ付来ルサ □

(7) 底本に無く、対校本のみにある文章で、長文にわたる場合、○印を付してその文章の位置を示した。

(8) 底本文にあり、対校本に無い文字には×印を付してその文字の無いことを示した。ミセケチ訂正部分は「余程」の如く示した。^無

(9) 欠損部は [] で示した。^ヒ

(10) 宛字はそのまゝとしたが、明らかに誤りと認められるもの及び不審な箇所には(ママ)と傍に付した。

(11) 丁付は(1・オ)(2・ウ)の如く示した。私の注記は()で示した。

畠山義成洋行日記 (表紙)

畠山義成君初ノ洋行之

時之記 平ノ馬場自宅ヨリ

(漂)××××

元治二年乙丑正月廿日晴天

そろひ

一六ツ半時分刑部殿御養ひ被成候

処直ニ立出御同道ニ而 [] 前へ横井

町江着候 [] 本田弥右衛門殿ニも

同所 [] 暫時咄共有之楠公

社江我々共一行参詣夫より伊集院

町江暫時休息いたし候 []

妙園寺江参詣武運を祈誓

奉り苗代川江七ツ後ニ着致候(1・オ)

正月廿一日晴天

一苗代川ヨリ五ツ時分ニ皆々同道ニ而

出立市来港ニ而昼飯共仕舞

夫より船ニ乗り羽島江安着いたし候(以下ナシ)

[] 之 [] 勉強 []

三月廿一日まで羽島浦滞在ニ而候

() 右記の如くあり、正月二十二日〜三月三十一日までの記事を欠く。因って、『漂流記』によりこれを次に補う。

(漂) 正月廿五日晴

正月廿六日半天

[] 食後6 [] 列ニ而散歩 [] 前6雨降出し []

『畠山義成洋行日記』翻刻

福井 迪子

畠山義成の洋行日記は、原本の所在不明のため、翻刻にあたり大正年間の書写になる現存三本を用いた。三本のあらまはは次の通りである。

『畠山義成洋行日記』(外題)

鹿児島県立図書館蔵。大正五年六月二十六日付、土岐久賀氏寄贈本。元治二年(1865)正月二十日〜慶応元年(同年なるも、四月八日改元)七月朔日までの日記。内題は「畠山義成君初ノ洋行之時之記」。内題下に「平ノ馬場自宅ヨリ」とある。ペン書きによる臨模本。

『漂流日記』(外題)

東京大学史料編纂所蔵。大正十二年九月書写。「公爵島津家編輯所」により「鹿児島市平ノ町一〇〇川村俊秀氏所蔵本」を田代貞英氏の臨写されたものの欠損部も詳しくうつつされた墨書きによるかなり丁寧な書写本である。内題なし。表紙には変名「杉浦弘蔵」が記されている。元治乙丑正月二十日から閏五月二十日までが記されている。

『西洋遊学日記』(外題)

東京大学史料編纂所蔵。大正十二年六月書写。「漂流日記」と同じく「公爵島津家編輯所」により「鹿児島市平ノ町一〇〇川村俊秀氏所蔵本」を写したもので、書写者は竹崎武男氏。五月二十八日から七月朔日に至る後半部

が記され、墨書きによる丁寧な書写本である。表紙に「杉浦弘蔵」の名が記されている。

翻刻にあたっては、以上三本の中最も書写年代が古く、元治二年正月廿日から慶応元年七月朔日までの略々全文を所収している鹿児島県立図書館本「畠山義成洋行日記」を底本とし、「漂流日記」及び「西洋遊学日記」をもって対校した。「漂流日記」との間にはかなりな異同が認められる。

翻刻

凡例

- 翻刻にあたっては、原文を忠実に翻刻することを旨としたが、読解の便をはかるため左の要領にしたがった。
- (1) 改行及び清濁、仮名遣いは原本通りである。
 - (2) 漢字、かな、片仮名の表記は原文のままとしたが、旧字体、略字体、異体字、変体仮名等を通行文字に改めたところがある。
 - (3) 読解の便をはかり、日付はゴチック体で記した。
 - (4) 対校資料『漂流日記』は(漂)で、『西洋遊学日記』は(西)で示した。
 - (5) 対校異文は小文字で底本文の右側に記した。
 - (6) 対校にあたっては漢字、かな、片仮名の異同は原則としてとらない。